

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2015年2月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2-15-5 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.36 ＜室長の一日！＞

特別に何か起こるわけではない学習塾の普通の日。

しかし、そんな普通の日を「何を意識」して、「どう過ごすか」によって、後々、大きな結果の違いとなって現れます。

今回は、室長が一日をどう過ごしたら良いのかをお伝えする為に、私の大手学習塾の室長時代の大きな一日の流れを書いてみます。今から27年も前のことですから、今とは環境も大きく違っているかもしれませんが、しかし、この室長時代は私にとって、塾運営に関して頭角を現す最初のステージでした。

是非、あなたの日と比べて見てください。何か新しい気づきや発見があるかもしれません。

1. グルッと周る＝出勤したら教室の外をグルッと周る

一日の始まりは、教室の外をグルッと周ることから始めました。テナントビルやマンションに教室があったので、その建物の外周を一周しました。これは主に教室の周囲の清掃のためです。「うちの生徒がゴミを捨てていないか!？」と心配で一周し、テナントビルの周りを綺麗にしたのです。

綺麗に保つことで顧客や地域の人たちに好印象を与えることはもちろんですが、「綺麗であることのプラス面以上に、汚れていたときの塾が受けるマイナス面の影響が大きい」との思いでグルッと周ることを一日の初めの仕事として決めていました。

例えば、お菓子の袋やカップ麺の容器などが教室周辺に落ちていた場合、仮に自塾生が捨てたのではないとしても、「この塾の生徒が捨てたのだろう!」と考える人は少なくないでしょう。その結果、「この塾は指導が行き届いていない」という印象を持たれかねません。極端な例かもしれませんが、タバコの吸殻が落ちていたら「この塾の生徒はタバコを吸っている」と思われるかもしれません。

「気を配る」とは、塾の仕事とは一見違うような所にも目を向けることなのです。

あなたも、行き交う人たちに、元気良く挨拶しながら掃除をしてみてください。必ず気づきや発見が生まれるはずです。

2. 入る前にストップ＝入口・外向けの掲示物をチェックする

教室を一周したら、次に教室の入口の前で立ち止まります。入口付近には、一般の方が入りやすいように、「営業時間」が明示され、「温かくお迎えするメッセージ」があるか確認しました。

「現在、新年度・春期講習のご案内をしております。お気軽にお入り下さい」など、時期ごとにメッセージを変えました。

また、皆さん外向け掲示はどうなっているでしょうか。掲示物は、まず見栄えが大切です。剥がれていたり、破れていたりしていないか確認します。

次に、期限切れの掲示物はないか、タイムリーな掲示はあるか、そして、入塾のために誘引したいフロントエンドの商品（無料イベント、無料体験、テスト対策など）の紹介はあるかどうかをチェックしてください。今思えば、私は意外と細かくやっていました。

3. 一歩入って見回す＝入口を一歩入って見回す

入口を入ったら、やはり一度立ち止まります。そして、教室内外をグルッと見回してみましょう。何が見えるでしょうか、また、どんな印象を受けるでしょうか。顧客が塾に入って、最初に何を見て何を感じるのか、それを毎日確認しました。

受付周りは整然としているでしょうか。入ってすぐの壁には、自塾を演出する掲示が貼ってありますか。もし、温かさを演出し

たいのなら、生徒の写真、先生からの温かいメッセージ、イベントの報告などを掲示します。

もし、指導力の良さを演出するなら、テストや検定の結果、受験情報、学校情報などを掲示するといいいでしょう。

ここでも時期ごとに意識して変えてみてください。

例えば、受験期なのに、ほんわかした雰囲気への掲示はもちろんふさわしくありません。「入試まであと〇〇日」というカウントダウンがすぐに目に入るようにしておくのがふさわしいのです。

4. 教室を見に行く=各教室を回って、前日の授業の様子をチェックする

集団指導の室長をしていたので、各講師の授業の様子を実際見ることは難しかったので、カバンを置いて、そのまま腰を落ち着くことなく、今度は教室をチェックしにいきました。教室の状態から、前日の授業の様子を類推していたのです。

集団指導なら、机の乱れ具合、壁や机の落書き、ゴミが落ちていないか、などをチェックしました。様子がおかしい場合は、その先生の授業や指導に問題がある可能性が高いのです。

また、板書の消し残しがある場合、それを見て、授業内容もチェックします。確認のために「最終授業の先生は板書を残しておいてください」とお願いしておくのもいいでしょう。

個別指導なら、前日使用したブースを見て周り、主に机・ブースの壁の落書きをチェックします。新たに落書きが増えている場合、前日の授業に問題ありと考えられます。

5. 今日の授業は誰が来る?=その日来る生徒と授業状況のチェックをする

教室のチェックが終わったら、次は、その日、授業に来る生徒の状況を確認します。まず、前回の授業報告を見ます。

集団指導なら各クラスの授業報告書を、個別指導なら個人ファイルを見て、どんな特記事項が挙がっていたのか改めて確認をします。また、確認テストの点数、前回の宿題の状況、最近の遅刻欠席の状況なども併せてチェックします。

チェックが終わったら、どの生徒にどんな注意を与えるのか、どのように励ますのかを考えます。また、目立つ生徒だけでなく、最近、声をかけていない生徒はいないか、思い返してみましよう。

また、生徒の状況を確認しつつ、その日に前回の授業の様

子がどうだったかも、再確認します。生徒特記や授業の特記を頭に入れ、講師への声掛けや指導・指示を考えます。

ここまでの5項目が出勤してから最初に行う業務です。この後、通常のルーチンの仕事に取り掛かります。

6. 出迎える=生徒が来る10分前に出迎えに出る

私の教室は、雑居ビルの2階にあり、尚且つ1階には、高校受験塾が2つあって、全然目立たなかったのです。

そこで、私が看板になるしかないと考え、生徒の出迎えを考えました。授業前には雑居ビルの入口の外に立って、生徒を出迎えます。元気に挨拶をし、自塾の存在を地域に知らしめるようにしました。

また、ただ挨拶をするだけではなく、目が合った際の生徒の反応をチェックします。いつもと同じなら問題ないのですが、違和感を覚えた場合は呼び止めて「元気か?」などと声をかけ、さらに生徒の反応を確かめます。

気になる場合には、授業後呼んで話を聴くようにしました。

7. クラスの雰囲気を見る=授業前には各クラスの様子を見に行く

私も授業を担当していたので大変だったのですが、授業前に各教室（個別指導は各ブース）を見て周り、生徒の状況や雰囲気を確認しました。落ち着いて授業を開始できる状態になっているか、まだ来ていない生徒はいないか、講師の生徒とのやりとりなどをチェックするのがここでのポイントです。

8. 授業中もグルッと=授業中もクラスの様子をチェックする

授業が始まったら、できるだけ授業中の様子もチェックして回ります。集団指導は、自分も授業を持っているケースが多いと思います。それでも、生徒が演習をしている間に教室を抜けて、その他の教室の授業を見て回ります。

個別指導も同様に授業を持っている場合は、演習中に他のブースを周り、生徒を励ましたり、指導したりします。これによって、生徒にも講師にも緊張間が生まれます。

9. 見送る＝授業後の見送りもする

授業終了後は、生徒の見送りをします。ここでも、生徒の表情や様子を確認し、気になる生徒にはさらに声掛けをします。私は必ず、出迎えの時と見送りの時に、生徒を笑わすようにしていました。「それじゃあな！転ぶなよ！」なんて言いながら見送りをしていました。

また、巡回中に気になる授業があった場合は、生徒をつかまえてその日の授業はどうだったのか取材します。

10. 講師の話を聴く＝生徒が帰ったら講師の話を聴く

生徒が帰宅したら、講師とコミュニケーションを取ります。授業日報を見ながら、質問をします。

集団指導ならば気になった生徒名を、個別指導ならば学習状況のほかに、生徒自身の様子や会話について訊いてみるというでしょう。

その他、巡回中に気になった授業の様子について指導します。

以上、10項目をご紹介しましたが、いかがでしょうか。今回伝えられなかったこともまだありますが、もし気が付いた点があれば、実行してみてください。

特に出勤してからの行動は、普段から意識していないと出来ないと思います。このような小さな積み重ねが大きな差となって現れます。

私は、「神は細部に宿る」と思いながら教室運営を行っていました。この修業時代が、私にとっては、良い肥やしになったと今でも思っています。

【あとがき】

2015年度、MBA主催のセミナーが決定しました。詳細は、2月下旬、弊社MBAからお届けする塾人応援マガジン「塾経営の戦略・戦術」をご覧ください。もし、お手元に届かない場合は、直接弊社にご連絡下さい。

(資) マネジメント・ブレイン・アソシエイツ

TEL: 045-651-6922

eメール mailadm@management-brain.co.jp

担当: 野口、井上

室長の日

グルッと回る

出勤したら教室の外をグルッと回る

入る前にストップ

入り口・外向けの掲示物をチェックする

一歩入って見回す

入り口を一歩入って見回す

教室を見に行く

各教室を回って、前日の授業の様子をチェックする

今日の授業は誰が来る？

その日来る生徒と授業状況をチェックする

出迎える

生徒が来る10分までに迎えに出る

クラスの雰囲気を見る

授業前には各クラスの様子を見に行く

授業中もグルッと

授業中もクラスの様子をチェックする

見送る

授業後の見送りもする

講師の話を聴く

生徒が帰ったら講師の話を聴く



公立中高一貫校の適性問題では、身近な生活の中での観察力、自分の考えを適切に表現できる力、論理的に考察する力、与えられた条件から予想を立て、思考・分析する力などが求められます。そのためには、毎日の学習習慣を確立して、そこで基礎学力を付けていくこと、読書の習慣が大事だということ、世の中のさまざまな出来事に関して「なんで!？」という気持ちを前面に出す姿勢が大切ですと前号では申しあげました。そのためにも、文章を読むこと、書くことをいやがらないことが大事です。家庭では読む機会、書く機会を意識的に用意してほしいものです。

文章を読むことをいやがらないためには、毎日の読書がとても役に立ちます。そして、読書にはゲームとは違う「深い面白さ」があることを伝えてほしいのです。そのためにも親が率先して本を読むことが大事です。お子さんを読書の世界に誘うためにも、親がお子さんと同じ本と一緒に読むことから始めませんか。一緒に同じ本を読んでいるわけですから、いろんな話題が出てくるはずですよ。まずは「こんなことが書いてあったけど、どのように感じたかな」と本の内容で話題を振ってあげるのです。そしてお子さんがどのように思ったかを「じっと」待ちましょう。急かしてはいけません。どう言おうが「そうだったの」と感心してあげましょう。思ったことを親をはじめ他者に伝えることが楽しいと子どもに思わせることが肝心なのです。物語の中に頻出する地名があれば「どのへんかな」と地図を出して一緒に確認してみるのもいいのではないのでしょうか。自然と日本地図に親しむことができます。世界の話であれば、自分たちが住む地球について、どこにどのような国があるのかもわかっていくというものです。いろんな形で家庭での雰囲気作りに励んでいただきたいものです。

本の中に知らない言葉が出てきたならば、後から調べるということも大事です。もし知らないお菓子の名前が出てくれば、ネットで確認しながら「こんなお菓子なんだ!」とお子さんに興味を持たせるようにしましょう。文章中に、どこかの都市の通りの名前が出てくれば、どんな通りなのか地図で調べてみるのもいいかもしれません。ネットに写真が出ていないか確認してみましょう。マップ機能を使って、空から「観察する」というのもいいものです。お子さんの想像力がまだ乏しければ、それを助けながら、読書を継続できるように支えていきましょう。

多くの子どもにとって、文を書くことはにがてというか、ハードルが高いものです。どうやってハードルを低くするか。それには、とりあえず書いてみようという雰囲気作りが大切です。とっかかりは日記でもいいのです。毎日が大変ならば、毎日曜日でもいいですから「印象に残ったこと」を書くことから始めましょう。拙い文章であっても「ここはどういうことだったのかな」と、お子さんの言いたいことを引き出してみるのです。「だったら、こういうふう書いたほうが分かりやすいんじゃないのかな。そのほうが相手に伝わりやすいよ」というように持っていく手もあります。文章を書くことをいとわないようにあの手この手を繰り出しましょう。そして、書いた内容の「お子さんの成長ぶり」を具体的に示しながらほめることです。ほめられれば、多少つらいこともお子さんはがんばります。

日本の小学生の3割近くは、毎日及び時々新聞（小学生、kodomo 新聞を含む）を読むそうです。最初は大変でしょうが、新聞にも興味を持たせましょう。そのためにも、毎週一回でもいいですから「こんな出来事があった」と家族で話し合う機会を持つと、お子さんの社会への関心度は増します。世の中の様々な事象に対して、お子さんの中に自分の意見が生まれてきます。それは考えるという行為の芽生えでもあります。芽生えに対して様々な刺激を与えていけば、お子さんの観察力、表現力、思考力、分析力は着実に伸びることになります。それこそ、適性検査対策の土台となることでしょ。